

## 症例 59

●61歳 女

昭和50年8月頃より夜間発作性呼吸困難出現。発作の頻度が増加してきたため、同年10月某病院に入院し、完全房室ブロックを指摘された。ステロイド治療により改善し、外来通院していたが、昭和52年1月再び完全房室ブロックが出現したため、人工ペースメーカを装着した。



121

- 1) 2種類のQRS波がでているが、どう考えればよいか。
- 2) ペーシングは良好か。

## 心電図診断

## 完全房室ブロック → 心室ペーシング 自己収縮(デマンド型)

3、4、10、11拍目以外は、QRS波の前に鋭い陰性のフレ（ペーシングインパルス）がある（ペーシングによるQRS波）。

3、4、10、11拍目はRR間隔がペーシング間隔より狭く、自己収縮である。自己収縮がでている間にはペーシングインパルスがでていない。ペーシングは良好である。

### 解 説

デマンド型ペースメーカーはQRS波が一定時間（ペーシング間隔）出なかった場合にのみペーシング・インパルスが発生する。

したがって自己収縮がでている間はペーシング・インパルスがでず、自己心拍のT波頂上付近にペーシング・インパルスがはいる(R on T現象)危険性がない。

